

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-113	高等学校	公民	公共	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	公共 709	高等学校 公共 これからの社会について考える		

1. 編修の基本方針

- (1) 公民科の必履修科目として、人間と社会の在り方についての基本的で幅広い知識・教養、ならびに情報を適切かつ効果的に取り扱う技能を身に付けられるようにした。さらに、ある話題について深く掘り下げる必要がある場合には「クローズアップ」で詳しく解説した。
- (2) 学習した知識・教養・技能を基礎として、学習者が人間としての在り方生き方についてみずから考えようとし、また社会の形成に主体的に寄与しようとする態度を育成できるよう、探究的な活動を行うコーナー、ページ（「Thinking Time」）を多く設けた。
- (3) 自国や国際社会における現代のさまざまな課題に関し、学習者がみずから問いを立てて多面的・多角的に考察し、自主的・自律的に選択・判断できるよう、多様な観点の題材や資料を掲載した。

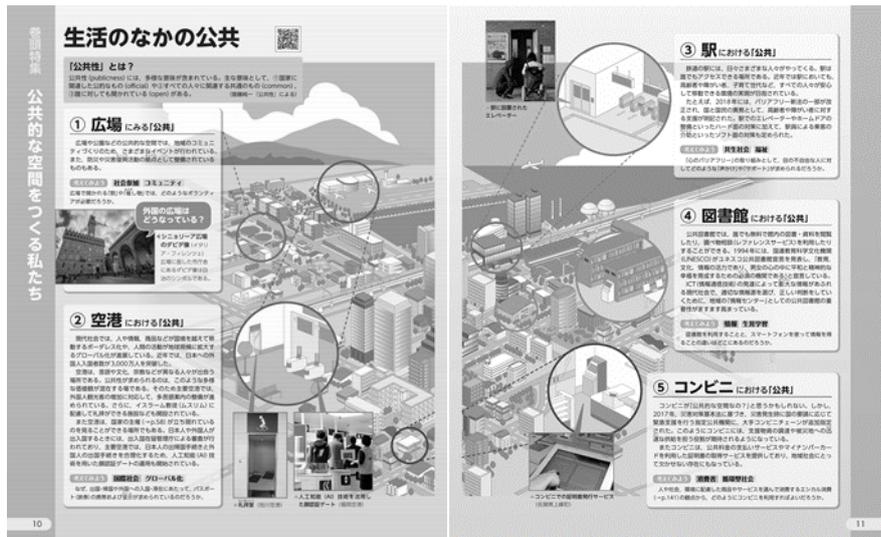
2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 1 大人ってどんな人？ 2 お互いを理解し尊重するために 3 誰もが生きやすい社会へ	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の持つ意義や自己形成の課題について考えさせるとともに、青年としての生き方について自覚を深めさせるように展開した（第2号）。 ・「善く生きること」を目指した先人の思索を紹介するとともに、その先人たちがどのように社会に対していたかを考察できるようにした（第1号）（第3号）。 ・先人の思索や日本の生活文化・伝統を紹介し、学習者自身や学習者の周りに暮らす人々の価値観や生き方への影響について気付かせるよう配慮した（第5号）。 ・自己実現やキャリア開発、男女の平等、個人の価値の尊重、共生社会などの観点から、誰もが生きやすい社会の実現について考察できるようにした（第2号）（第3号）。 	12～15 ページ 16～23 ページ 20～22 ページ 24～29 ページ
第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課	<ul style="list-style-type: none"> ・「理性的に生きること」を目指した先人の思索を紹介するとともに、その先人たちがどのように社会に対していたかを考察できるようにした（第1号）（第3号）。 ・自然の生態系が持つ特徴や人類の活動が自然に与える影響を知り、地球規模で環境保全に取り組みねばならないことを気付かせるような構成にした（第4号）。 	32～41 ページ 42～47 ページ

<p>題と倫理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学やバイオテクノロジーの発展にともない提起されてきたさまざまな問題について、多様な角度から考察できるような構成にした（第4号）。 	<p>48～51 ページ</p>
<p>第2章 公共的な空間における基本原理</p> <p>第1節 民主社会の基本原理</p> <p>第2節 日本社会の基本原理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民主社会や日本国憲法の基本原理を紹介し、他者と共に生きる社会の実現にむけてどのようなことが大切なのかに気付かせるよう配慮した（第2号）。 ・統治機構の基本的なしくみを理解し、現代の政治状況に対する見方を養えるような構成にした（第1号）（第3号）。 	<p>58～75 ページ</p> <p>76～80 ページ</p>
<p>第3章 ルールをつくり守る私たち</p> <p>第1節 法と契約</p> <p>第2節 司法参加の意義</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法と契約、また日本の司法制度に関する基本的な知識を身に付け、消費者としてまた主権者として、自主・自律、正義、公共の精神などの観点から、よりよい選択・判断ができる力を身に付けられるよう配慮した（第1号）（第2号）（第3号）。 	<p>82～101 ページ</p>
<p>第4章 政治に参加する私たち</p> <p>第1節 政治参加と民主政治の課題</p> <p>第2節 国際政治の動向</p> <p>第3節 国際政治の課題と日本の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に社会の形成に参画したり、政治に参加したりすることの重要性や意義を知り、これらに主体的に寄与する態度を育成できるよう配慮した（第3号）。 ・国際法の理念や日本国憲法の平和主義の理念について紹介するとともに、国際社会をめぐる動向や日本との関係を概観しながら、日本社会の一員として、国際社会の平和と発展に寄与する態度を育成できるよう配慮した（第1号）（第5号）。 	<p>104～115 ページ</p> <p>116～141 ページ</p>
<p>第5章 経済活動を行う私たち</p> <p>第1節 経済のしくみと産業の変化</p> <p>第2節 市場経済のしくみと金融</p> <p>第3節 財政と社会保障</p> <p>第4節 国際経済の動向と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済の基本的な理論やしくみを理解することにより、現代の経済状況に対する見方を養うとともに、幸福・正義・公正などの観点から解決策について考察できるような構成にした（第1号）（第3号）。 ・これまでの日本経済の進展とその変化を紹介するとともに、中小企業や地域の経済、また農業が果たす役割の大切さについて気付かせるよう配慮した（第5号）。 ・日本の労働法制について、その施行内容や改正内容を紹介し、勤労や男女共同参画の意義について理解を深めさせるよう配慮した（第2号）（第3号）。 ・国際経済のしくみを理解するとともに、世界の経済をめぐる動向や日本との関係を概観しながら、日本社会の一員として、国際社会の平和と発展に寄与する態度を育成できるよう配慮した（第1号）（第5号）。 	<p>142～199 ページ</p> <p>148～155 ページ</p> <p>156～161 ページ</p> <p>184～199 ページ</p>
<p>課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち</p> <p>課題探究の観点</p> <p>課題探究の手引き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会が抱えるさまざまな課題を考察するにあたって、どのような観点が存在するのかを具体例をあげてわかりやすく示した（第1号）。 ・日常生活や学習の過程で生じた疑問に対し、自発的に疑問を解明する態度を養えるようにした（第1号）。 	<p>200～205 ページ</p> <p>200～215 ページ</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・ カラーユニバーサルデザインに配慮し、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォント（UD フォント）を使用した。
- ・ p.4「本書の構成」や節の冒頭に「二次元コード」を設け、関連するサイトや動画へのリンク、学習理解度を確保する「確認テスト」のページにアクセスできるようにした。
- ・ 前見返しには「今日の世界」「日本の世界遺産」を掲載し、他国の尊重、我が国の伝統や文化の尊重の意識を高められるようにした。
- ・ 一般的な教養を高め、専門的知識を習得する一助として、「公共のとびら」「ニュースの記録」を p.6～9 で設けた。
- ・ 広場、空港、駅、図書館、コンビニエンスストアを例に「公共」とは何かを考えさせる「生活のなかの公共」を p.10～11 に設けた。



- ・ 本文中の太字や読みにくい漢字に積極的にルビをつけ、一般的な教養を高められるように配慮した。
- ・ 中学校公民とのつながりを重視し、本文重要語句のうち、中学校公民で学習した最重要用語には赤下線を引いた。
- ・ 学校教育法第51条「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い」の規定を踏まえ、「クローズアップ」「Thinking Time」での「考えてみよう」「話し合ってみよう」のコーナーで思考力・表現力を養う機会を数多く設けた。

考えてみよう

クラスの40人が、三つの候補に右表のような順序付けをしている場合を考えてみよう。この表は、[a]の16人は、北海道、大阪、京都の順に好む]と読む。例えば多数決を行うと、[a]の16人は北海道に、[b]の14人は京都に、[c]の10人は大阪に投票する。

	a)16人	b)14人	c)10人
1位	北海道	京都	大阪
2位	大阪	大阪	京都
3位	京都	北海道	北海道

Q1 決選投票つき多数決のもとでは、どの候補が勝つだろうか。

Q2 ボルダールールのもとでは、どの候補が勝つだろうか。

- ・ p.206～215に「課題探究の手引き」を設け、課題探究活動への配慮をした。
- ・ 巻末資料として日本国憲法をはじめ、民法や刑法など社会での暮らしに関連する法令を掲載した。
- ・ 現代の日本と世界の動きを理解する一助として、後見返しに「現代の日本と世界」（年表）を設けた。

編 修 趣 意 書

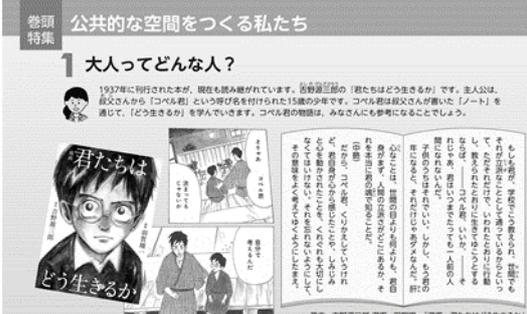
(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-113	高等学校	公民	公共	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
104 数研	公共 709	高等学校 公共	これからの社会について考える	

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 身近にある公共的空間を考える「巻頭特集」

「A 公共の扉 (1) 公共的な空間を作る私たち」の内容を、他箇所と別体裁で「巻頭特集」として配置した。青年期や思想・宗教など高校生になって初めて習う学習内容について身近な事例を交えて取り組めるように工夫した。多文化共生やSDGsについても広く扱っているが、高校生にとって身近な問題として感じられるように編修した。



巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち

1 大人ってどんな人?

1997年に刊行された本が、現在も読み継がれています。青春漫画の『君たちはどう生きるか』です。主人公は、叔父さんから『コロン君』という呼び名を付けられた15歳の少年です。コロン君は叔父さんが書いた『ノート』を通じて、『どう生きるか』を学んでいきます。コロン君の物語は、みなさんにも参考になることでしょう。

原典：吉野弘二 著・藤岡一 漫画 『君たちはどう生きるか』

Thinking Time 01

「大人」の自分を想像してみよう

20歳・50歳・80歳になったとき、「あなたが幸せに生きるために「大切にしたいもの・こと」、次は3人案に共通して「必要なもの・こと」は何か、考えてみよう。理由も必ず示そう。さらに、グループで話し合ってみよう。

	自分で考えたこと		グループで話し合った結果	
	「大切にしたいもの・こと」	「必要なもの・こと」	「大切にしたいもの・こと」	「必要なもの・こと」
20歳				
50歳				
80歳				

④ 第二次性徴
生まれたときに限られる生殖腺などの性腺の性差である第一次性徴に対して、性ホルモンの分泌で現れる性差のことを第二次性徴という。その特徴が現れるのは12~13歳から20歳ごろまで。要諦をよみよみ。

⑤ 文化・道徳 第二の誕生
われわれはいわば二度生まれる。一度は生物学的な命、二度目は社会人となる。一度は人間の一員として、二度目は性をもった人間として。… (ルソー『エミール』)

⑥ 青年期の特徴をとらえたことばを挙げてください。それぞれの説明を添えて理解できますか? 納得感3~4点のどれくらいですか?

ことば	説明	納得度
心理的離乳	乳児が母の乳から離れる身体的な離乳に対して、精神的に離れていくことをいう。心理学者ホリングワース(1886~1939)のことば。	3 2 1
第二成長期	3~4歳ごろの幼児期の第一成長期に対して、自己意識が芽生え、親と大人に対して必要以上の批判や反抗を示すようになる時期をいう。	3 2 1

⑧ 大人になることの意味
現在の日本では、18歳になると、選挙で投票することや、法的に成人(成年)となり自分の責任で契約を結ぶことができる。また、地元の市区町村主催で行われる**成人式**は、現代社会で重要な意味をもつ**通過儀礼**(イニシエーション)といえるだろう。

だが、一定の年齢に達したからといって、大人になったといえるのだろうか。現代社会で大人になるには、社会の慣習やルールを学ぶこと(社会化)だけでなく、将来の職業生活に必要な高度な知識や技術を身につけていくことが求められる。そのため、大人への準備期間である青年期は、現代では長期化する傾向にあるといわれている。

ことば	説明	納得度
境界人(境辺人・マージナル・マン)	「もう子どもではない」が「まだ大人でもない」、子どもと大人の境目の不安定な状態にある青年を表現している。心理学者レイオン(1890~1947)のことば。	3 2 1
心理・社会的モラトリアム	複雑な現代社会において、青年がアイデンティティを確立するまで社会的責任や義務を負担せずに時間を経るという。心理学者エリクソン(1902~94)のことば。	3 2 1

⑨ 通過儀礼
七五三や成人式、結婚式、卒業など、毎年の恒例とともに、共同体のなかでの立場や役割が変化するときに行われる儀式・慣習のことである。



⑩ 現代社会の通過儀礼
現代社会の「成人式」は、パンジー・ジャンプの装置であるランドゲイザーが大人への通過儀礼となっている。

(2) 公民科の目標に留意したうえで、授業でも扱いやすい教科書配列

まず、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、公共的な空間における基本的原理について学ぶ(巻頭特集, 第1章~第2章)。次に、これまでの学習内容を活用して、実例としての法・政治・経済に関する現代の諸課題を学ぶ(第3章~第5章)。最後に、現代の諸課題を主体的に解決するためのより実践的なアウトプット方法を学ぶ(課題学習編「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」)。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち	A 公共の扉 (1) 公共的な空間を作る私たち	10～29 ページ	6
第1章 公共的な空間における人間と してのあり方生き方	A 公共の扉 (2) 公共的な空間における人間 としての在り方生き方	30～55 ページ	9
第2章 公共的な空間における基本原 理	A 公共の扉 (3) 公共的な空間における基本 的原理	56～81 ページ	10
第3章 ルールをつくり守る私たち	B 自立した主体としてよりよい社 会の形成に参画する私たち ア- (ア) ・ (エ) , イ	82～101 ページ	6
第4章 政治に参加する私たち	B 自立した主体としてよりよい社 会の形成に参画する私たち ア- (イ) ・ (エ) , イ	102～141 ページ	13
第5章 経済活動を行う私たち	B 自立した主体としてよりよい社 会の形成に参画する私たち ア- (ウ) ・ (エ) , イ	142～199 ページ	19
課題探究編 持続可能な社会づくりの主体 となる私たち	C 持続可能な社会づくりの主体と なる私たち	200～215 ページ	7
		計	70